

岐阜市に新しいパーマネントコースが誕生した。脚力に応じて選べるコース、登山とオリエンテーリングが同時に楽しめる、チョットお得なPCめぐりはいかが？

ながら川ふれあいの森コース
岐阜県 No.23 JOA 公認 No.780
Aコース / 10km 8ポスト
Bコース / 9km 7ポスト
Cコース / 4km 6ポスト

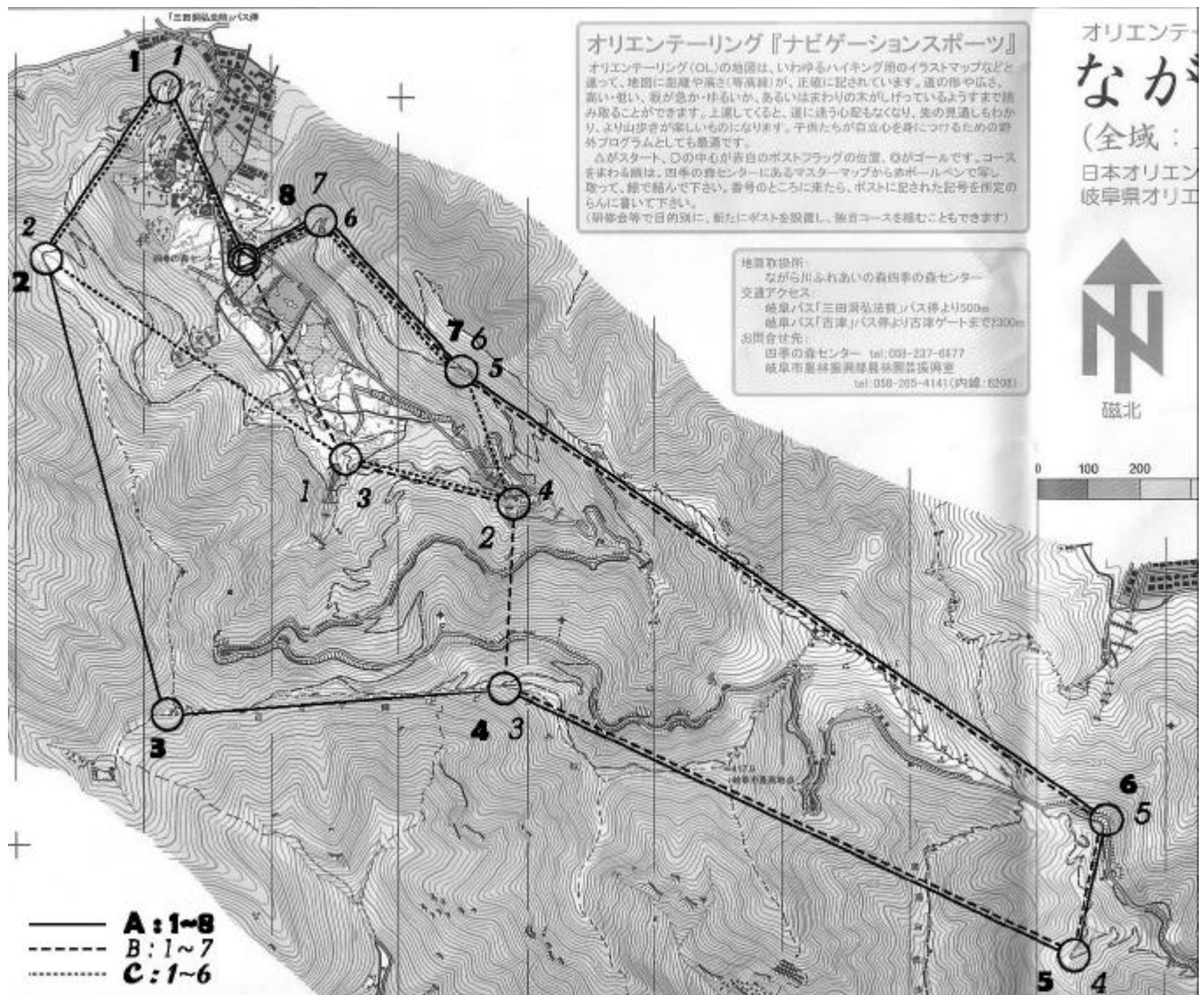
新設！山岳系コース

前号の「桃花台・四季の森」コースに次いでオープンしたのが、今回ご紹介する岐阜県「ながら川ふれあいの森」コースです。開設記念大会は5月25日に開催されました。「桃花台」コースが住宅地を巡るのに対して、こちらは対極にあるようなコース。岐阜市最高地点「百々ヶ峰」周辺の山岳地帯に設置されており、脚力が試されます。

名鉄新岐阜駅前5番バス乗り場から、岐阜バス三田洞線（13番または33番）「三田洞団地」行きに乗り込み、30分余りで「三田洞弘法」に到着します。

余談ですが、岐阜バスでは女性の契約運転手を積極的に採用しているようで、私が帰りに乗ったバスの運転手もとても若い女性でした。大きなハンドルを、全身を使って操る姿には少なからず感動がされます。

「三田洞弘法」バス停からは道案内があり、スタート地点の「四季の森センター」へは500mほどの距離。ながら川ふれあいの森は2000年10月に岐阜市によって整備されたもので、3年を閲した今も全ての施設が新鮮そのものです。



選べる3コース

設置されたポストは1コース分の10基ですが、ここではこれを組み合わせで3つのコースが組まれています。Aコースが8ポストで10km、Bコースが7ポストで9km、Cコースが6ポストで4km。いずれも公認されています。マップは2種。A3判1:10,000の大きなマップと、初級者向きの設定になっているCコース専用のA4判1:7,500があり、いずれも1部100円。マスターマップと共に「四季の森センター」で管理されています。ちなみにCコースの単独のポストはなく、Aコースの第4ポスト(Bコースの第3ポスト)以降はAとBは同一コースとなります。

最初はマイルドなBコース

スタート時間は昼の12時10分でしたが、一筆書きで全てのポストを1度に回るのではなく、正規のコース通りに2周することとしました。はじめはBコースから。「四季の森広場」からキャンプ場のある林の中に入っていきます。「ふれあい広場」という円形のスペースを過ぎ、緩やかな勾配を遊歩道に從って登っていくと、第1ポストに到達。そして、等高線沿いのなだらかな道を東に詰めると小さな休憩所があり、その裏に第2ポストが置かれています。

ここからがこのコースの真骨頂。同じ道を引き返し、分岐を経て登山ルートへと差し掛かります。新たに整備された登山道は、地元の方々には格好のハイキングコースとしてすでに定着しているようす。幾多の人達とすれ違い、その都度挨拶を交わしていきます。

「百々ヶ峰」の稜線は従来の東海自然歩道が拡張され、そのうえ急勾配の区間は新たな迂回ルートが作られて歩き易くなっています。管理道路へ下るルートとの分岐に第3ポスト。ここはAコースの第4ポストでもあり、これ以降は2コースが共通となります。では、Aコースはここまでどのようなルートをたどるかということ。

修行気分のAコース

Bコースを2時間18分で終了後、6分間休憩してAコースを歩き始めましたが、こちらは猛烈にハードなコース。第1ポストはBコースと逆で「三田洞弘法」へと向かいます。この弘法様、正式には「高野山真言宗法華寺」といい、弘仁7年(816年)空海によって創建されました。弘法前を通り過ぎ、神社の脇から「鐘戸山休憩所」の道標に従い、つづら折りの歩道へ進入。端で2

体の地蔵が佇む岩の前に第1ポストが置かれています。

Bコースの賑わいとは打って変わり、この辺りはハイカーもまばら。ひっそりとした雰囲気は漂っています。ピークを越え、三叉路を戻るように右手に折れると、道端の第2ポストは呆気なく出現。

そして、いよいよ正念場。第3ポストの「西峰」へはこのコースでただ1ヶ所、自然歩道から外れ、今にも消え入りそうな小径を歩きます。尾根筋を直登し、いつ終わるとも知れない視界不良の林の中を黙々と進むこと30分、ようやく西峰山頂へ到達。第3ポストをチェックし、稜線を東に向かうとBコースのルートと合流します。(以下、Aコースのポスト番号で記述)

第4ポストからは一層の登り。岐阜市最高地点である「百々ヶ峰」山頂へ向かいます。山頂には3組の先客があり、各々のんびりと昼食休憩中。ひと通り挨拶を済ませてから展望台に登ると、眼下にひろがる眺望はほしいまま。十分堪能してから山を下り、管理道路に出たらトイレで一息。井戸水で手をすすぎ、さらに緩やかに下って行きます。多くのハイカーが休憩する「白山展望地」から、「展望芝生広場」の案内に從って遊歩道へ進入。ほどなく小ぶりの芝生広場があり、第5ポストをその南端で確認。

管理道路に戻り、道端の第6ポストを過ぎると「白山展望地」に一旦戻ります。ここから「権現山」山頂を経由するルートは登りよりも下りが長く、膝に負担のかかる過酷な区間。1度ならず2度もこの坂道を下るのはさすがに堪えません。分岐にある第7ポストに到達するまで優に40分はかかるでしょう。鋭角カーブの第8ポストまではそこからわずか5分ほど。秋の日は釣瓶落とし。1周目では燦爛と降り注いでいた太陽も2周目には山向こうにすっかり没し、暗がりの中をゴールしました。

時間があれば「三田洞神仏温泉」で一汗流して帰途に就きたいところです。回り応え満点の山岳コース。侮れない新設コースです。

(2003年11月23日 大高竜亮)